難防除雑草対策による水稲の安定生産」

活動年次：令和３年

後志農業改良普及センター本所地域第三係

1　課題設定の背景 **********

対象：共和町老古美地域　10戸

高齢化・後継者不足により、
担い手に農地が集積

慢性的な労働力不足
栽培管理作業の適期作業が困難
（主に水田雑草防除対策）

難防除雑草が多発

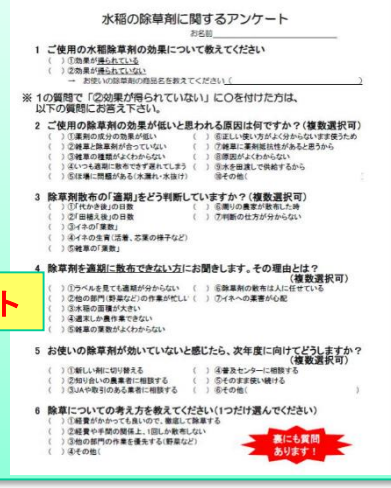
水稲の生育への悪影響

難 防 除 雑 草 に 対 す る 安 定 的 防 除 の 実 施

2　活動の経過 **********

①雑草管理の実態を詳細に把握

個別聞き取り ＋ アンケート



水稲の除草剤に関するアンケート

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿

1 ご使用の水稲除草剤の効果について教えてください
（ ）①効果が得られている
（ ）②効果が得られていない
→ 対応いの除草剤の商品名を教えてください（　　）

※ 1の質問で「②効果が得られていない」に○を付けた方は、以下の質問にお答え下さい。

2 ご使用の除草剤の効果が低いと思われる原因は何ですか？（複数選択可）
（ ）①薬剤の成分の効果が低い　（ ）⑥正しい使い方がよく分からないまま使うため
（ ）②雑草と除草剤が合っていない　（ ）⑦雑草に薬剤抵抗性があると思うから
（ ）③雑草の種類がよくわからない　（ ）⑧原因がよくわからない
（ ）④いつも遅刻に散布できず遅れてしまう　（ ）⑨水を均一に、供給するから
（ ）⑤圃場に問題がある（水漏れ・水抜け）　（ ）⑩その他（　　）

3 除草剤散布の「適期」をどう判断していますか？（複数選択可）
（ ）①「代かき後」の日数　（ ）⑥雑りの農家が散布した時
（ ）②「田植え後」の日数　（ ）⑦判断の仕方が分からない
（ ）③イネの「葉数」
（ ）④イネの生育（活着、茎葉の様子など）
（ ）⑤雑草の「葉数」

4 除草剤を適期に散布できない方にお聞きします。その理由とは？（複数選択可）
（ ）①ラベルを見ても適期が分からない　（ ）⑥除草剤の散布は人に任せている
（ ）②他の部門（野菜など）の作業が忙しい　（ ）⑦イネへの薬害が心配
（ ）③水管の調整が大きい
（ ）④適期しか農作業できない
（ ）⑤雑草の葉数がよくわからない

5 お使いの除草剤が効いていないと感じたら、次年度に向けてどうしますか？（複数選択可）
（ ）①新しい剤に切り替える　（ ）④普及センターに相談する
（ ）②知り合いの農業者に相談する　（ ）⑤そのまま使い続ける
（ ）③JAや取引のある業者に相談する　（ ）⑥その他（　　）

6 除草についての考え方を教えてください（1つだけ選んでください）
（ ）①経費がかかっても良いので、徹底して除草する
（ ）②経費や手間の関係上、回し方散布しない
（ ）③他の部門の作業を優先する（野菜など）
（ ）④その他（　　）

裏にも質問あります！

②解析結果から雑草防除管理上の問題点の抽出と改善の方向性を導出

雑草防除管理上の問題点

- 雑草葉齢の進度を移植後日数との関係理解が不十分
- 除草剤の散布を「移植後日数」から数えて実施
- 除草剤を移植後10日以上経過してから散布
- 構造上、田落とし方式で注水するほ場あり
- 経営面積が増えた等で除草剤の適期散布が困難

改善の方向性

- 雑草葉齢の進度と移植後日数を示した模式図を提示
- 従来方法では殺草限界を超過することを理解してもらう説明
- ほ場の構造に対応した効果的除草体系の設定
- 殺草限界の葉齢が大きくても効果のある薬剤の選定

③必要な対策を具体化して実行＋きめ細かくフォロー

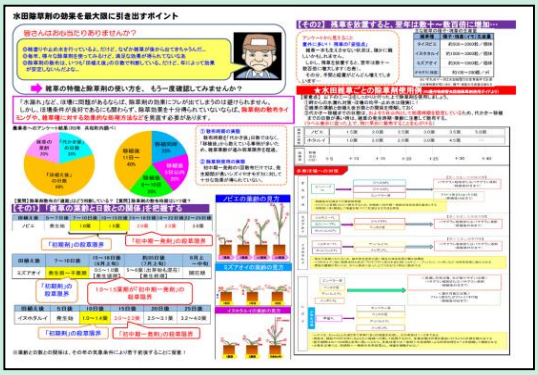
技術資料改善資料を作成し、個別に配付
個別に除草剤散布時期や栽培管理方法について、きめ細かく支援

3　活動の成果 **********

＜技術改善資料作成により、改善事項が明確化された＞

作成した技術改善資料

「水田除草剤の効果を
最大限に引き出すポイント」



資料を用いて改善を推進

技術改善資料の個別配付と説明
＋
個別支援

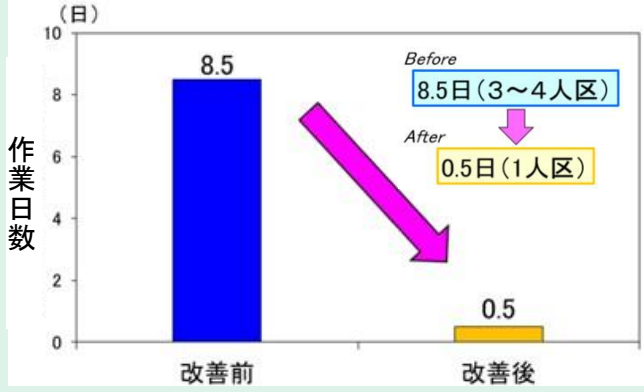
技術改善資料は**地域の農作物病害虫防除・除草剤使用ガイド**に掲載が決定

除草剤の散布時期や雑草管理方法の見直し実践

雑草多発ほ場は概ね見られなかった

＜優先雑草に対応した除草を実践し雑草が減少＞

著しい改善効果に驚き喜ぶ農業者



残草除去に要する時間と人員の変化（Ｉ氏）

残草除去作業の時間と人員が**大幅に削減！**

《農業者の声》

「除草剤を使っているのに毎年雑草だらけになる原因が分からなかった。今回、除草対策が失敗する原因がやっと分かり、雑草がかなり減ったのでとても満足している」

4　今後の活動 **********

難防除雑草の安定防除実施に向け支援を継続する。
効果的な雑草防除対策を関係機関の協力を得ながら地域に波及させる。
除草剤散布作業のさらなる省力化を実現するための技術方策を提案・実証支援する。